



Creative Application A02

はじめに思考ありき

2024年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

受講のてびき

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます。答えのない議論があります
- ・ 前半：本日のテーマ紹介と座学
- ・ 後半：テーマを深める談義・質問・考察
- ・ 気になることをメモをしながら受講してください

資料の見方

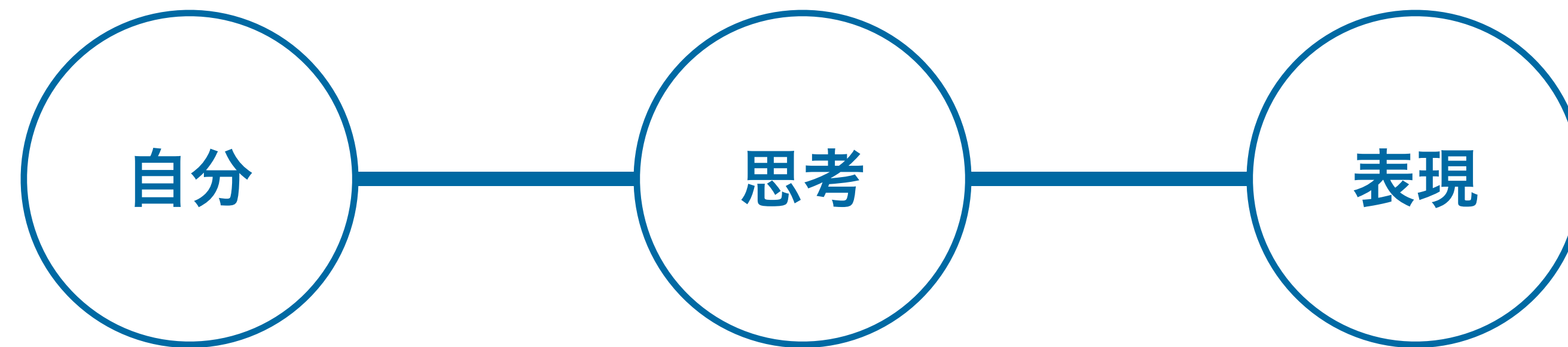
テーマに沿った項目
(座学で説明します)

左の内容に関連した
補足キーワード
(調べ物に役立ててください)

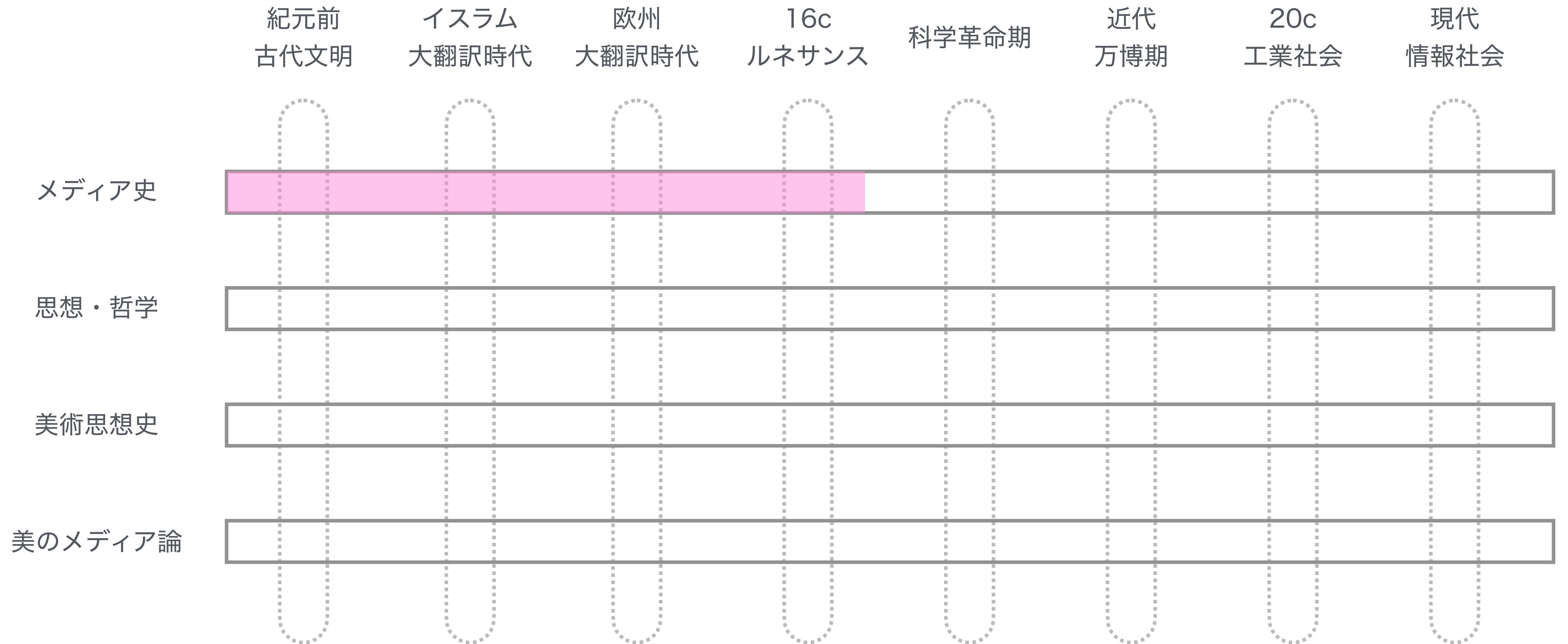
テーマ

- ▶ **思考** は人類史からの贈り物

関連要素図



今回の領域



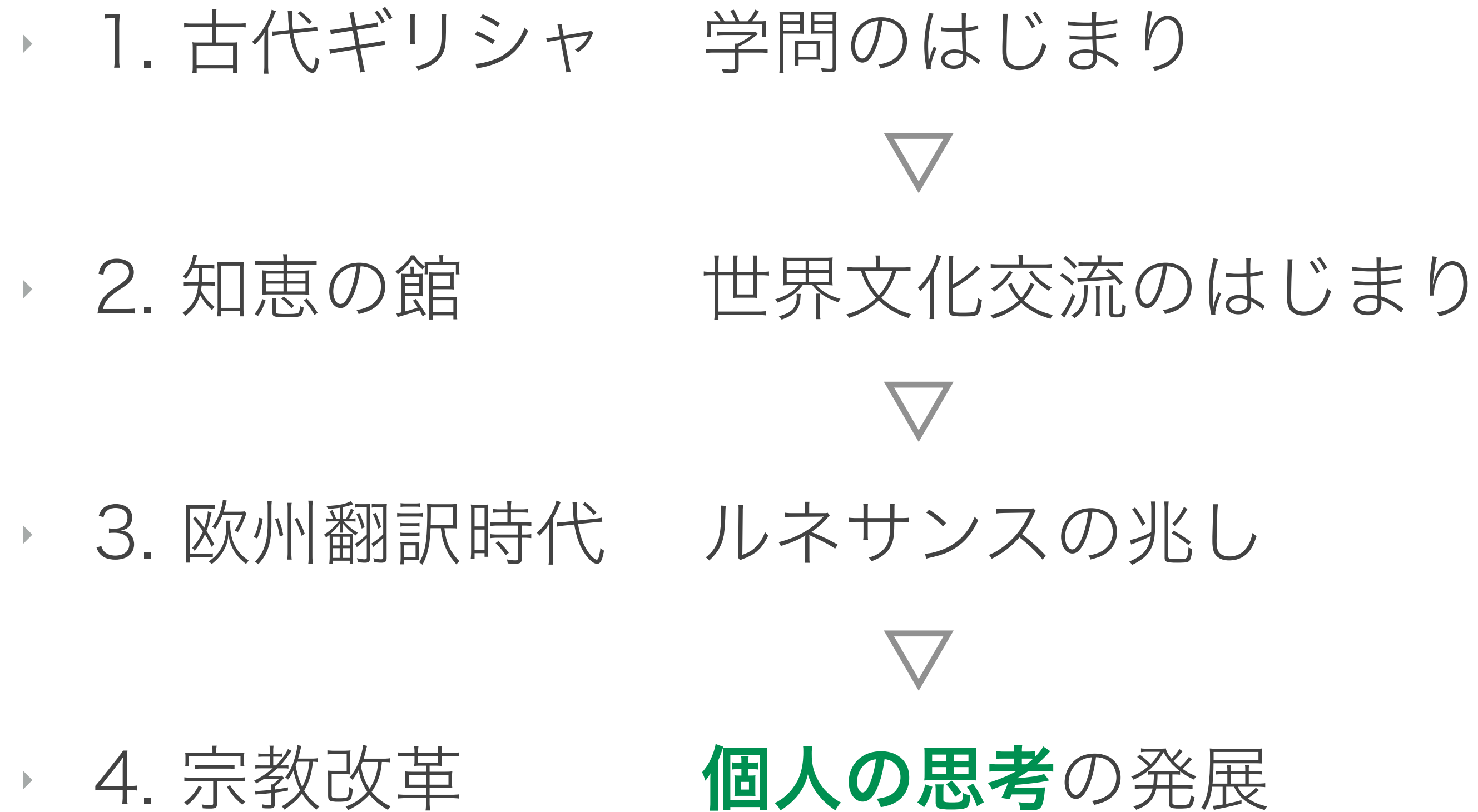
現代の思考・古代の思考

- ▶ 現代の**思考** = 個人の思考
- ▶ 古代の思考
 - ▶ 王や有力者の思考
 - ▶ 法律・倫理・論証
 - ▶ 精霊・神・教義・道 など
 - ▶ **個人の思考より優先される事柄が多かった**
- ▶ 個人の思考はどのように育まれたのか？

関連キーワード

- アニミズム, シャーマニズム
- メソポタミア文明
- 王政の誕生
- ハンムラビ法典
- 古代バビロニア
- 古代エジプト
- オリエント文明, ヒッタイト帝国
- 古代ギリシャ
- アケメネス朝ペルシア, ゾロアスター教
- 二元論
- 多神教, 一神教
- 仏陀, 大乘仏教, 上座部仏教
- ユダヤ教, キリスト教, イスラム教
- タルムード, 聖書, コーラン
- 儒教, 孔子, 老子, 孟子
- ローマ帝国の成立

中東・欧州における思考の変遷



関連キーワード

- マケドニア帝国と継承戦争
- ローマ帝国分裂
- 西ローマ帝国, ビザンティン帝国
- エフィソス公会議, ネストリウス派排斥
- ササン朝ペルシア, ホスロー1世
- アッバース朝イスラム帝国
- カロリング朝ルネサンス
- 12世紀ルネサンス
- 神学論争
- 北方ルネサンス
- オスマントルコの伸長
- ビザンティン帝国の滅亡
- 16世紀ルネサンス

思考の変遷1 - 古代ギリシヤ

▶ 有力者の**思考**の時代

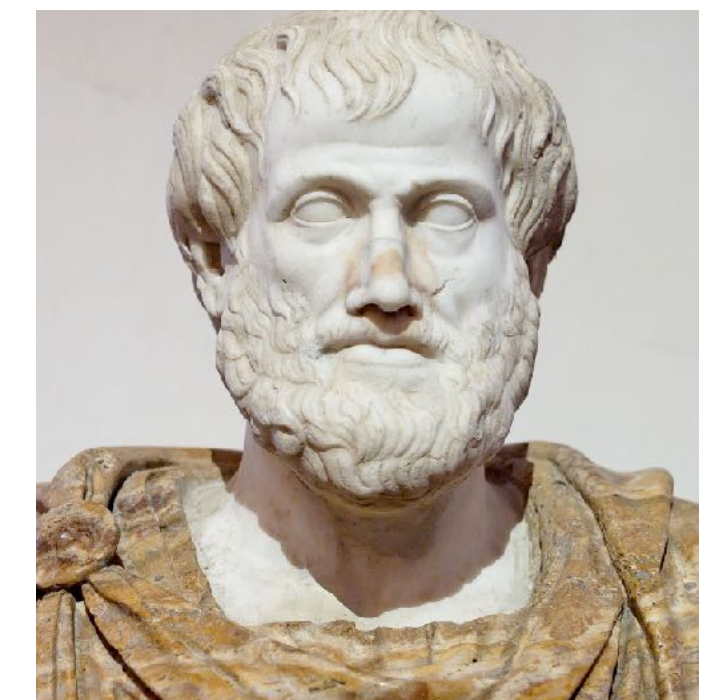
- ▶ 生活に余裕ある人たちが考えるようになる
- ▶ 生命維持の思考 → 世界認識の思考へ

▶ 学問・哲学の誕生

- ▶ プラトニズム, アリストテレス哲学

関連キーワード

- プラトン, イデア論, 想起説
- アリストテレス, 存在論, フィロソフィア
- デモクリトス, 原子論
- タレス, ソクラテス, エピキュロス
- アカデミア・プラトニカ
- 自然学, 形而上学

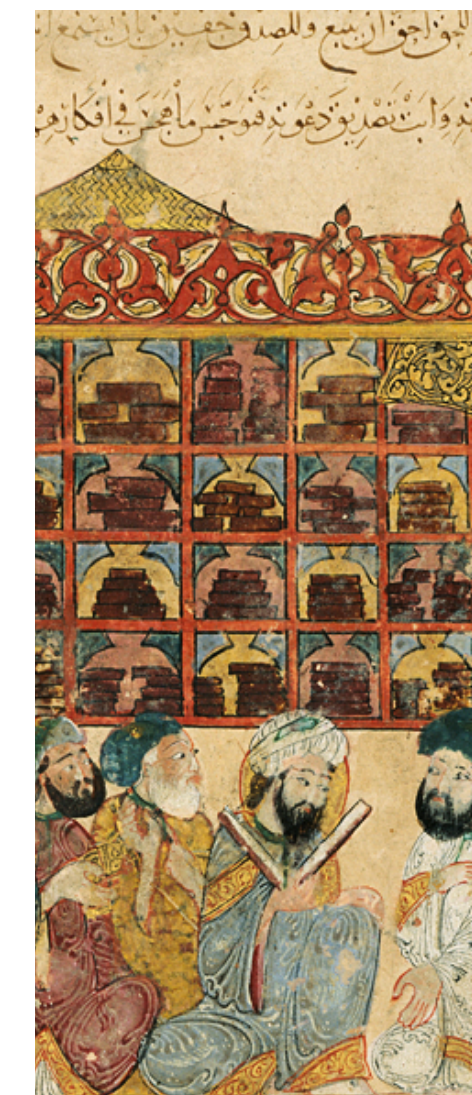


思考の変遷2 - 知恵の館

- ▶ **学者の思考の時代**
 - ▶ アッバース朝での異文化交流
 - ▶ 世界中のアラビア語翻訳本が集結
 - ▶ 色々な分野の交流が発生
 - ▶ イスラムを深める解釈や科学が発展
 - ▶ 多くの科学的な功績が生まれる
 - ▶ 天文学, 医学, 代数学 など

関連キーワード

- タラス河畔の戦い(製紙技術の獲得)
- アッバース朝, エジプト, バビロニア, アラビア, ペルシア, ギリシャ, インド
- イスラム科学, 解釈学, アリストテレス哲学
- イブン・シーナー, アル・フワーリズミー
- 「医学典範」 「代数学」



思考の変遷3 - 欧州翻訳時代

▶ マルチメジャー(翻訳家・神学者)の**思考**の時代

▶ 12世紀ルネサンス

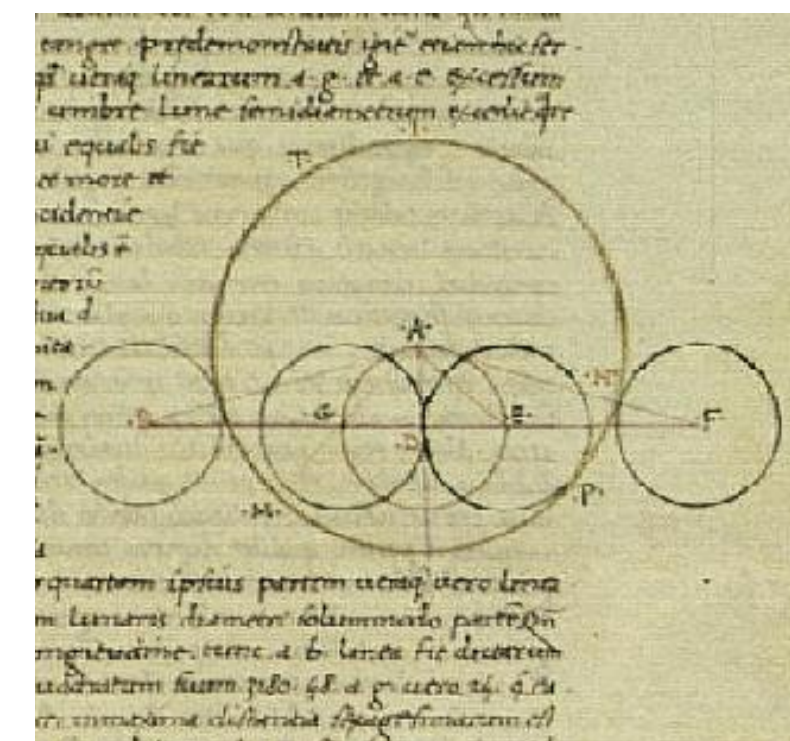
- ▶ イスラムの書物をラテン語翻訳
- ▶ ヨーロッパとイスラム文化の交流

▶ 文化・信仰・科学の混交

- ▶ ギリシャ文化 + キリスト神学 など

関連キーワード

- トレド, パレルモ
- 第一次十字軍, 十字軍国家
- トマス・アキナス, 尊者ピエール
- 「神学大全」 「アルマゲスト」
- スコラ哲学



思考の変遷4 - 宗教改革

▶ 個人の思考のはじまり

▶ キリスト教再構築運動

▶ 読みやすくした聖書を印刷して配布

▶ 大衆が直接読み, それぞれ考えはじめた

▶ 一人一人が解釈を持つ → **個人の思考の芽生え**

関連キーワード

- イタリアルネサンス
- コシモ・デ・メディチ
- グーテンベルクの活版印刷技術
- ルネサンス人文主義
- 北方ルネサンス
- マルティン・ルター
- ドイツ農民戦争



思考の変化・社会への出力

- ▶ **個人の思考**の発展
- ▶ (例) 西洋絵画の変遷
 - ▶ 中世の宗教画 : キリスト神学
 - ▶ ルネサンス絵画 : ギリシャ神話
 - ▶ 以降の絵画 : 個人の思考からの発露
- ▶ **個人の思考の変化 → 表現(出力)の変化**
 - ▶ 現代は個々人の考えが社会にリリースされる時代

思考は人類史からの贈り物

- ▶ はじめに**(個人の)思考**ありき
 - ▶ 権力者から個人へと変遷
 - ▶ 分野交流が思考を進化させていく
 - ▶ 現代は 私(個人)自身を社会に出力する時代



- ▶ **自分で考えられるのがすべての出発点**
- ▶ **様々な考えに触れ思考を育む → 表現を育む**

CreApp-Bのリンク1

- ▶ **ものづくりのスタート = 自分の思考のスタート**
 - ▶ 源泉は自分の欲望で良いが、初めは必ず**つくるものについてよく考える**
- ▶ 実現した時のイメージをもつ
- ▶ 特に大事な部分を考える
- ▶ つくるために必要なことを考える
- ▶ 実現までの流れを考える
- ▶ メモする

本日の談義・考察一助

- a. AIの専門家の中で人の理解を深めようという意見があるのはなぜか
- b. 個人の思考と、他者(がもつ個人)の思考がある。どう両立するか
- c. 個人の思考が社会に影響を与えている例を挙げてみてほしい
- d. メディア学と個人の思考はどのように関わると思われるか
- e. 上記に限らず、自由に質問・問題提起・雑談をしてほしい

次回予定

- ▶ **思考とメディア あるいは 主客と世界**

参考文献

1. ウンベルト・エーコ著, 河島 英昭訳, 「薔薇の名前」, 東京創元社, 1990
2. 井筒 俊彦, 「イスラーム文化 - その根底にあるもの」, 岩波書店, 1991
3. 井上 浩一, 「生き残った帝国 ビザンティン」, 講談社文庫, 2008
4. 伊東 俊太郎, 「十二世紀ルネサンス」, 講談社学術文庫, 2006
5. 高階 秀爾, 「ルネッサンスの光と闇」, 中公文庫, 1987
6. 徳善 義和, 「マルティン・ルター - ことばに生きた改革者」, 岩波新書, 2012
7. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
8. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
9. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
10. 東 浩紀, 「動物化するポストモダン」, 講談社現代新書, 2001